

ボツワナ共和国月報(2025年11月)

主な出来事

【内政】

- BPF、党大会を実施
- BDF新司令官の任命式典
- ボツワナ経済変革プログラム可決
- 施政方針演説
- グラフ元農業大臣死去
- UDC、補欠選挙で勝利

【外政】

- ムルム・インド大統領、ボツワナを訪問
- ボツワナとアゼルバイジャンが歴史的な外交協定に署名
- ハオラテ副大統領、日本を訪問
- ブタレ国際関係大臣、EU・AUサミットに出席

【SADC関連】

- SADC、ドイツと二国間協議
- SADC、臨時サミット開催
- SADC、SADCコミュニケーション・意識向上・可視化戦略 2025-2030を発表
- SADC事務局長、G20首脳会議に出席

【経済】

- 国家開発計画12(NDP12)に基づき、農業改革に209億プラを投入
- ボツワナ政府、エネルギー安全保障強化に向けた覚書を締結
- ボツワナは中国企業との提携を模索
- ボツワナとアンゴラ、ダイヤモンド需要回復に注力
- ハオラテ副大統領、BETPデジタルハブを発表
- 2025年9月の貿易統計
- エネルギー・燃料部門が後押し

【広文】

- ボツワナのスポーツ・芸術省による61億プラの投資計画

【当館関連行事】

- 横浜市茅ヶ崎小学校とベンテマ小学校の児童画交流展
- 国際交流基金海外巡回展「I love sushi」の開催
- 日本語講座修了式

【内政】

○BPF、党大会を実施

1日～3日、野党BPFは党幹部を選出する党大会を実施したが、選挙委員が辞任するなどの混乱により、党大会は延期された。その後、ラティレ党首が党首の座から退き、ローレンス・オオケディツェ保健副大臣が着任したと発表されたが、ハオラテ・ハレボツウェ中將も党首を名乗るなど混乱が続いている。(2日付ミッドウィークサンFB 等)

○BDF新司令官の任命式典

3日、ボコ大統領は新しいBDF司令官、前米国大使のンボ・モプティン大将の任命式に出席した。

○ボツワナ経済変革プログラム可決

7日、国民議会でボツワナ経済変革プログラム(BETP)が可決された。(7日付大統領FB)

○施政方針演説

10日、ボコ大統領は国民議会で「堅実な道:一つずつ約束を果たす」と題し、施政方針演説を行い、電気と水道料金の30%引き下げ、職業訓練生手当と生活手当の増額などの政権の1年間の成果に言及した。

○グラフ元農業大臣死去

11日、クリスチャン・デ・グラフ元農業大臣が死去した。元大臣はカーマ政権時代2011年～2015年に農業大臣を務めており、今年10月に自殺を図ったと報じられていた。

○UDC、補欠選挙で勝利

15日、チンボンビ前国土・農業大臣の死去に伴う、カラハリ南選挙区の補欠選挙が行われ、トーキョー・モディセUDC候補が勝利した。次点の前与党BDPの候補の凡そ倍の得票数だった。

【外政】

○ムルム・インド大統領、ボツワナを訪問

11日～13日、ムルム・インド大統領がボコ大統領の招待を受け、ボツワナを訪問した。ボツワナとインドの間の永続的な関係を再確認し、貿易、投資、教育、テクノロジー、保健、再生可能エネルギーといった主要セクターにおける協力を推進することを目的とした。また、両大統領は、薬局方協力に関する覚書(MOU)に署名した。

○ ボツワナとアゼルバイジャンが歴史的な外交協定に署名

11日、ボツワナ政府とアゼルバイジャン政府は、ニューヨークで共同コミュニケに署名し、両国の外交関係を正式化した。この画期的な出来事は、相互理解、協力及び国際法の遵守を促進するという相互のコミットメントを象徴するもの。

○ ハオラテ副大統領、日本を訪問

23日～29日、ハオラテ副大統領は、日本国外務省の招待により日本を公式訪問した。同訪問中、同副大統領は茂木外務大臣とのワーキングディナー、豊田通商とのMOU、ロジスティクス関連企業のダイフクの視察、テクノロジー企業AIBOSとの会談、東京都立産業技術高等専門学校の視察、日本体育大学での講演、農業関係者（JA広島）の視察等を実施した。

○ ブタレ国際関係大臣、EU・AUサミットに出席

25日、ブタレ国際関係大臣はルアンダ（アンゴラ）で開催されたEU・AUサミットに出席した。会議では、AUとEUのパートナーシップにおける2つの主要テーマ、「平和、安全保障、ガバナンス」と「多国間主義」について議論した。

【SADC関連】

○ SADC、ドイツと二国間協議

5日～6日、南部アフリカ地域共同体（SADC）はハボローネにてドイツと二国間協議をマホシ事務局長とゲルハルダス・ドイツ連邦経済協力開発省南部アフリカ部門長を議長として、実施した。この会議にて、地域経済統合、水管理、自然資源保全など、SADCの主要な優先事項に対し、新たに2,610万ユーロを含む追加支援を約束した。

○ SADC、臨時サミット開催

7日、SADCの国家元首及び政府首脳による臨時首脳会合がオンラインで開催された。同会合では、マダガスカルのSADC議長の辞退、南アフリカのSADC暫定議長任命等の決定がされた。

○ SADC、SADCコミュニケーション・意識向上・可視化戦略 2025-2030を発表

17日、SADCは、地域統合と市民中心のアジェンダを強化するため、「コミュニケーション・意識向上・可視化戦略 2025-2030」をボツワナで発表した。ドイツの支援を得て策定されたこの戦略は、デジタル化の推進、メディアとの連携強化及び多様な市民にSADCの成果を伝える包摂的なアウトリーチを目指す。これにより、SADCは透明性を高め、市民との間の理解と信頼を構築し、地域アイデンティティを強化することを目指す。

○ SADC事務局長、G20首脳会議に出席

22日～23日、ヨハネスブルク(南アフリカ)で開催されたG20首脳会議にマホシ SADC事務局長が出席した。同会議にて、SADCはコンパクト・ウィズ・アフリカ(CwA)の拡大や2030年までの再生可能エネルギー3倍増など、具体的な目標を設定した。

【経済】

○ 国家開発計画12(NDP12)に基づき、農業改革に209億プラを投入

10月31日、エドウィン・ディコロティ国土・農業大臣代行は、ボツワナは国家開発計画12(NDP12)に基づく包括的な農業変革ロードマップの実施に209億プラを要すると議会で述べた。この投資により、農業のGDPへの寄与率を6%に引き上げ、食料輸入費を8%削減し、農業輸出を総輸出の3.8%に拡大することを目指す。

○ ボツワナ政府、エネルギー安全保障強化に向けた覚書を締結

6日、ボツワナ政府は、エネルギー安全保障の強化とインフラの近代化を目的として、国際投資家であるサーティファイブ・グローバルリンクス、メルキュリア・アジア・ホールディングス、ウルサン・ホールディングス、イノベーション・グローバル・インダストリーズとの戦略的パートナーシップを締結した。ボコ大統領が発表した本合意により、740億プラ(55億米ドル)以上の外国直接投資が誘致され、ボツワナ国民への持続可能で信頼性が高く手頃な価格の電力供給が確保される見込み。

○ ボツワナは中国企業との提携を模索

11日、ティロエアオネ・ンツィマ通商・起業大臣は、ボツワナ・中国国交樹立50周年を記念する起業家フォーラムで、同国が原材料輸出から付加価値製造、先端技術、持続可能で自律的な発展へと移行していることを強調した。

同大臣は、50年にわたる協力関係を振り返り、両国間の強固な外交・経済・文化・教育の絆を指摘。范勇中国大使も同様の見解を示し、両国関係の戦略的本質と中国の継続的協力へのコミットメントを強調。中国のアフリカ産農産物輸入増加を例に挙げ、ボツワナが市場アクセス改善の恩恵を受けることを期待すると表明。BETP(ボツワナ経済変革計画)及びNDP12(第12次国家開発計画)に基づくボツワナの開発計画への中国の支援を再確認し、より多くの中国企業のボツワナ投資と雇用創出を奨励する方針を明らかにした。

○ ボツワナとアンゴラ、ダイヤモンド需要回復に注力

7日、ボツワナとアンゴラは天然ダイヤモンドの世界需要拡大に向けた取り組みを再確認した。ハボローネでの会談後、ボホロ・ケネウエンド・ボツワナ鉱物資源・エネルギー大臣とディアマンティーノ・アゼヴェド・アンゴラ鉱物資源・石油・ガス大臣は、アングロ・ア

メリカン社が保有する85%株の売却計画を受け、両国がデビアス社の過半数株式取得を目指す点で完全な一致を見せた。両国は、自国経済にとって重要なダイヤモンド市場を活性化させるための強固なパートナーシップと共通戦略を強調。アングロ・アメリカンは間もなくデビアス株の入札候補を絞り込む見通しで、ボツワナ、アンゴラ、元デビアス幹部が有力候補に挙げられている。

○ ハオラテ副大統領、BETPデジタルハブを発表

19日、ボツワナは経済変革の加速と民間投資誘致のため、BETPデジタルポータル(BETP.gov.bw)を立ち上げた。ンダバ・ハオラテ副大統領兼財務大臣は、同プラットフォームがプロジェクト情報、セクター概要、パートナーシップ機会を提供し、透明性と民間主導の成長への転換を示すと述べた。同副大統領は、BETPがNDP 12の実施エンジンであり、測定可能な成果、ダイヤモンド以外の経済多角化、競争力ある輸出主導型経済の構築に焦点を当てていると強調。

○ 2025年9月の貿易統計

9月、ボツワナの総輸入額は約70.6億プラで、8月比で2.0%の増加。主な輸入品目は機械・電気機器(19.5%)、燃料(18.4%)、食品・飲料・たばこ(16.8%)。主要輸入元はSACU(65.1%)で、国別では南アフリカ(60.1%)が首位、次いで中国(8.3%)、ナミビア(4.1%)。一方、輸出総額は約51.6億プラで、8月と比べ6.0%減少。輸出品の大部分は、ダイヤモンド(69.5%)及び銅(15.2%)が占めた。アジアが最大の輸出先(58.9%)であり、国別ではUAE(27.4%)、インド(20.0%)、南アフリカ(14.0%)が主要市場。輸入の75.8%は道路を、輸出の70.4%は航空便を通じて行われた。

○ エネルギー・燃料部門が後押し

25日、ボツワナ政府は鉱物資源・エネルギー省を通じ、鉱物・エネルギー分野での協力深化に向けオマーンと合意覚書(MoA)を締結した。ハボローネでの調印式で、ドゥマ・ボコ大統領は、これらの合意がボツワナのエネルギー安全保障強化と将来の地域エネルギー輸出国としての地位確立に不可欠であると述べた。同大統領は、この覚書が、18か月以内に電力の純輸入国から純輸出国へと転換するという国家目標を支援するものであり、燃料の安全保障を現在の14日間から6～9か月間に拡大するだろうと述べた。アブドゥルサラム・ビン・ムハンマド・アルムルシディ・オマーン投資庁長官は、これらのプロジェクトが地域社会の福祉の向上に貢献するとして、プロジェクトを完遂するというオマーンの決意を改めて表明した。

【広文】

○ ボツワナのスポーツ・芸術省による61億プラの投資計画

ボツワナ政府は、スポーツ・文化・クリエイティブ産業に対し、今後10年間で過去最大となる61億プラの投資を行うと発表。第12次国家開発計画（NDP 12）の公共投資プログラムの一部として、国民議会へ提出。予算の大半である58.6億プラが、最先端施設の建設および改修に充当。

【日本大使館関連行事】

○ 横浜市茅ヶ崎小学校とベンテマ小学校の児童画交流展

11日～16日までベンテマ小学校で児童画交流展が実施された。初日には進藤大使が挨拶し、児童画の交流を通じて両国文化の理解と関心を促進した。

○ 国際交流基金海外巡回展「I love sushi」の開催

11月14日から12月6日の日程で開催される同巡回展のオープニングセレモニーが11月14日に実施された。進藤大使が挨拶をし、招待客約80名が展示品の見学や寿司のデモンストレーションや日本酒の試飲に参加して日本食へのより深い理解を促進した。

○ 日本語講座修了式

11月22日、文科省から「日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業」を受託している秋田大学が開催した5週間の日本語講座が終了し、最終試験の合格者や成績優秀者等が出席し、修了式が開催された。

（了）